

京都商工会議所・パリール・ド・フランス地方商工会議所友好協定30周年記念

2018年会頭ミッション

京都知恵ビジネスメッセ

開催報告

本所はパリール・ド・フランス地方商工会議所との

友好協定30周年を記念し、国際交流特別委員会(納屋 嘉人委員長)の主管の下、

立石会頭を団長として、総勢27名の視察団を派遣しました。

また、記念事業として、6月19〜20日の2日間にわたり、

京都の伝統に培われた知恵と技術を活かした商品・素材を一堂に集めた

『京都知恵ビジネスメッセ in PARIS』

「Savoir, Tradition et Innovation Kyoto」を開催しました。

in PARIS



2018年会頭ミッション

相互のさらなる飛躍に向けて、新たな友好協定を締結

6月19日の午前、パリイール・ド・フランス地方商工会議所(CCI-P)の本部を表敬訪問し、クリング会頭、日仏経済交流委員会クシユリー会長代行らと面談しました。

CCI-Pとは30年前の1988年1月に友好協定を結び、公式訪問団の受け入れ、両地域に関連した重要なイベントの情報交換、展示会への協力、産業視察の実施等について相互協力をしてきました。また、20周年では、両地域の若者の相互研修や交流の推進を追加し、交流を深めました。



協定に調印する立石会頭とクリング会頭

今回、友好協定30周年を契機に、大きく変わる世界情勢の課題に合わせて協定内容を刷新し、双方の地域経済のさらなる発展に協力していくという、新たな友好協定の策定を目指して議論し、相互で協定内容について合意に至り、その場で調印を行いました。立石会頭からは、「相互交流をより密に行っていくために、年度ごとにどのような取り組みを行っていくかを議論し、決定していく協議の場を持つべきである」と提案。CCI-P側からも賛同を得て、今後より密度の濃い交流事業を実施していくこととなりました。



CCI-P との懇談

「自由・ユーゴ・サラド奨学金」とは？

2015年の秋、日本の旅からフランスに戻って間もないユーゴ・サラドさんが、パリで発生した同時テロ事件で亡くなりました。当時23歳の青年は、モンペリエ大学で人工知能を勉強し、いずれは日本への留学を夢見る学生でした。

父親のステファーン・サラドさんは、息子ユーゴさんの日本留学の夢はかなわなかったが、他の学生が日本に行けるよう、この奨学金を創設しました。人間関係などで悩んでいたユーゴさんは日本滞在中に開放的な気分に満たされ、胸に漢字で「自由」というタトゥーを刻んだといっています。奨学金はこのエピソードにちなみ、「自由・ユーゴ・サラド」と名付けられました。ステファーンさんの自己資金や教育機関、企業の協賛金によって、日本に留学する学生一人あたり5000ユーロ(約65万円)を助成し、今までに8名(京都へは6名)の留学生を送り出しています。



日本滞在を楽しむユーゴ君



Bourse Jiyuu - Hugo Sarado

関、企業の協賛金によって、日本に留学する学生一人あたり5000ユーロ(約65万円)を助成し、今までに8名(京都へは6名)の留学生を送り出しています。



京都企業からの寄付金をステファーン・サラド氏へ贈呈



右から立石会頭、サラド氏、ラベル氏、クシュリー氏

若者交流の懸け橋となる「自由ユーゴ・サラド奨学金」への寄付

新たな友好協定に基づき、本所では、フランスの学生が日本へ留学する資金を援助するために創設された「自由ユーゴ・サラド奨学金」(P4下欄参照)に協力するため、この奨学金の趣旨に賛同いただいた会員企業から寄付をお願いした結果、約150万円の寄付金を集めることができました。

19日に行われた「京都知恵ビジネスメッセ in PARIS」の開会レセプションには同奨学金の創設者であるステファーン・サラド氏並びに同奨

学金制度を運営するパリテック財団所長のギヨーム・ラベル氏にもご出席いただき、その場で立石会頭から1万1000ユーロ(150万円相当)の寄付金を贈呈しました。

サラド氏からは、「失った息子の遺志を今後フランスの若い学生に受け継いでもらうために、できるだけ同奨学金を続けていきたい。この度の京都経済界からの寄付には大変感謝している」と挨拶がありました。

京都・パリ友情盟約締結60周年 記念レセプションに参加

6月19日夜には、京都市とパリ市の友情盟約締結60周年の記念式典・レセプションがパリ市庁舎で行われ、会頭ミッションのメンバーも参加しました。門川市長、パリ・イダルゴ市長による挨拶などのあと、コシノジュンコ氏がプロデュースする能とコラボしたファッションショー、北野天満宮太鼓会の演奏などを楽しみました。



コシノジュンコ氏プロデュースのファッションショー



パリ市庁舎にて

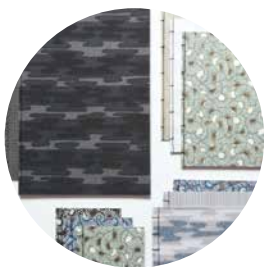
京都知恵ビジネスメッセ in PARIS

京都・パリ商工会議所友好協定締結30周年および京都・パリ友情盟約締結60周年記念事業として、知恵と工夫に富んだ京都の商品や素材を一堂に集めた展示会

『京都知恵ビジネスメッセ in PARIS "Savoir, Tradition et Innovation Kyoto"』を開催しました。

6月19・20日の2日間で約600名が来場し、長年にわたって培われてきた

京都の知恵と伝統工芸の高い技術をパリ商工会議所会員企業やバイヤー等に披露しました。



出展企業

《ファッション》

株式会社エミュー・ラクサイ

近江屋株式会社

株式会社片山文三郎商店

株式会社京でん

オフィスアイ 京都山本製革店

株式会社京都絞美京

株式会社金箔押山村 GOLDREAM

秀和株式会社

株式会社ティーヘッド

株式会社寺島保太良商店

株式会社中野伊助

PRIBONDS

丸和商業株式会社

宮階織物株式会社

株式会社山城

《ライフスタイル》

株式会社井助商店

株式会社伊と幸

川並鉄工株式会社

京都瑞鳳堂

京仏具株式会社小堀

熊谷聡商店

弘誠堂

株式会社尚雅堂

丈夫窯

西陣織テキスタイルブランド STARRAIN

株式会社中嶋象嵌

株式会社西川貞三郎商店

西村友禪彫刻

株式会社白龍庵勝山

二方屋

有限会社平安陶花園

山田繊維株式会社

《インテリア》

和硝子屋株式会社

表望堂

株式会社日吉屋

真葛 宮川香齋

有限会社YS企画

渡文株式会社

株式会社和紙来歩

オープニングレセプション

パリ側からは、パリ商工会議所日仏経済交流委員会のクシュリー会長代行やパリ市オカー副市長、京都からは立石会頭をはじめ会頭ミッション訪問団、門川市長などが出席。京都らしく鏡開きで開催を祝うなど、京都とパリの友好をさらに深める演出がなされ、和やかなムードでスタートしました。



開会の挨拶を述べる立石会頭



鏡開きで開催を祝した



初日から多くの方が会場へ詰めかけた



出展者39社のうち、26社(35名)が渡仏し、現地で来場者をお迎えしました。京都の知恵や技術を活かした商品や素材をPRするとともに、現地のバイヤーやデザイナー等と活発に意見を交換しました。

展示ブース

実演ブース

イル・ド・フランス手工業・工芸業者会議所(CRMA)の協力のもと、京都とフランスの職人(各7名)が実演を披露。来場者にもものづくり技術の奥深さを伝えるとともに、職人同士がお互いの伝統工芸・ものづくり技術について情報交換し、交流を深めました。



MANGAコーナー／SAKEコーナー

京都国際マンガミュージアムと連携し、フランスでも人気の「マンガ・アニメ」を紹介。同ミュージアム研究員によるライブドローイング(マンガの作画)の実演や複製原画の展示などを行いました。

また、日本酒とその文化について紹介するため、各日先着100名限定の振舞酒とパネルを展示。振舞酒およびオープニングレセプション時の日本酒は、宝酒造株式会社様より協賛いただき、来場者からは大変好評でした。



SAKE コーナー



MANGA コーナー